「業界一丸」で【蘇生・再生】へ懸ける年!!

2011年・遊技産業各団体、企業トップ年頭所感

どうすれば、遊技人口の回復・拡大へ向くのか…まさに正念場!!

（カラフトに使用した写真は、あくまでイメージで本文とは関係ありません）

「各団体間の協調した動きは、業種を超えた団結の必要性を認識し、成し得た成果。この友好的な気運・流れを新たな年につなげたい」
全日本遊技事業協同組合連合会

理事長
原田　實

新年あけましておめでとうございます。

皆様方には、益々ご健勝で輝かしい平成23年の新春を迎えられましたことを心からお慶び申し上げますとともに、平素からのご指導、ご支援に対しまして、心から厚く御礼申し上げます。

まず、私ごとではありますが、昨年、全日遊連では役員の改選があり、多くの方々からご支援、ご協力をいただき、私も理事長として二期目を迎えさせていただくこととなりました。そのご期待にこたえるためにも、今年も、執行部一同一丸となり、皆様のお知恵を頂戴しながら、業界発展のため、全力で仕事にあたる所存であり、厳粛な年の初めにあたり、気持ちを新たにしているところであります。

さて、昨年は、世界的不況に端を発した影響が影を落としながらも、我が国の経済もゆるやかながら持ち直し、私たちホール業界においても、店舗数の減少も下げ止まり、遊技人口も微増の傾向にあると言われておりました。しかし、まだまだ景気が回復したといえる状況ではなく、相変わらず厳しい業況であることに変わりはありません。

私たちの業種は、かつて不況に強い業種と言われてきました。私たちもまた、それに甘えていたのかもしれません。今、あらゆる産業が、国民から本当に必要であるのか、その存在意義を問われている、そんな時代を迎えたのではないでしょうか。社会にとって、国民にとって、私たちの業のあるべき姿とはどういうものであるのか、何を求められているのか、今こそ根本的に業としてのあり方を見直すべき時なのだと思います。その答えは、業界に関わる全ての者で導き出してゆかなくてはなりません。時代の変化という大きな波を乗り越えるためには、共に力を合わせ、団結することが必要不可欠であります。皆様と共に、長い歴史の中で育まれてきたパチンコという文化を後世に伝えてゆきたいと思います。

昨年も、活発に他団体と協議を進め、APEC開催に伴う遊技機の入れ替え自粛、ホール5団体によるエコホール宣言等、様々な取り組みを行いました。また、全日遊連の全面的な支援により設立した、ぱちんこ依存問題相談機関リカバリーサポート・ネットワークを21世紀会の会員である業界14団体で支援することとなり、パチンコ依存問題に業界全体が取り組む体制となりました。

こうした団体間による協調した動きも、各団体の皆様が、業種を超えた団結の必要性を認識された結果、成し得たものであり、また、現在、他団体との友好的な気運は、かつてないほどに高まってきていると実感しております。

この流れを今年にもつなげ、今年が業界にとって、輝かしい年になるよう、皆さまのご協力、ご支援を重ねてお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、私からの年頭の挨拶とさせていただきます。

「射幸性・環境・エコ・社会貢献・のめり込み問題など新しい遊技環境を業界全体で議論し、つくりあげていく時期。"結束強化"でスキームづくりへ!!」
社団法人日本遊技関連事業協会

会長
深谷　友尋

新年明けましておめでとうございます。

昨年のパチンコ・パチスロ業界は長引く不況の影響もあって、依然として厳しい経営環境の下で終始しました。しかし、厳しい厳しいとばかりいっていても前に進めません。今年はうさぎ年ですから、何としても飛躍の年にしたいと思っています。

警察庁の発表によると、パチンコ店舗数は平成21年末まで14年連続で減り続けています。日本生産性本部の「レジャー白書2010」によると、かつて30兆円産業といわれた市場規模は平成21年には3分の2に縮小しました。その中で参加人口は最盛期の平成6年に比べて4割以上落ち込んでいるものの、ここ2年は微増を続けています。微増の一因は、1円パチンコをはじめとする低貸玉営業が普及しているおかげですが、そのために4円市場がやせ細り、ホールの収益構造は激変して経営の見直しを迫られています。4円パチンコ、20円パチスロの再生は急務といえる事態となりました。

重要なことは、パチンコ・パチスロ業界を取り巻く環境は大きく変化しているのですから、業界もまた変わっていかなければならないということです。1円、50銭というレートで楽しんでいるお客様の顔を見ていただきたい。高額なお金を使うということにお客様は危機感を持っているだけです。そのことを理解して次のステップを考えればいいのです。「気軽に長く遊びたい」「大当たりをたくさん引きたい」というお客様のニーズに応えた新しい遊技機「CRAA」を、日遊協は遊技機メーカーのご協力で開発しています。とくに遊技機については人々の趣味が多様化している時代ですから、それに合わせた、高い射幸性ではなく幅のあるゲーム性の新しい遊技機の開発は必須です。

さらに、高齢者、若者、女性も楽しく参加できる環境づくりを考えなければなりません。音がうるさい、たばこのにおいがいやだといってパチンコ・パチスロを敬遠している人は多いし、これまで業界はそういう人たちに顔を向けて来なかったのです。しかし、これからはパチンコをしない人たちの目線に立って、そういう人たちにもお客様になってもらう努力が必要となります。すそ野を広げていかないと経営的に苦しくなるだけでなく、社会的にも真の大衆娯楽と認めてもらえないと思うのです。新しい遊技環境を、業界全体で議論してつくりあげていく時期だと思っています。

業界の結束は今年、一層強く求められることになるでしょう。第三者機関の遊技産業健全化推進機構への支持・支援はもとより、中古機流通協議会、セキュリティー対策委員会、リサイクル推進委員会、ゴト対策に関する4団体・5団体会議など、関連業種の団体で構成する話合議の運営はこれまで以上に重要度を増すことでしょう。その上で、環境・エコ、社会貢献、のめり込みなどの問題に対するスキームづくりを業界全体で話し合っていくときが来ています。これらの問題は団体単位で頑張るよりも、業界一丸で対処するほうが効果はあり、社会的に認められるためには必要です。

日遊協は業界の皆様と力を合わせ、パチンコ、パチスロが「身近で手軽な大衆娯楽」であり続けるよう、今年もたゆまずに活動してまいります。

「遊技業界を取り巻く環境が急変し、予測がつかない時代に突入。"業界存続"を見直さなければならない時期ゆえ、関係団体の固く強いパワー、結束を切に願う」
一般社団法人遊技産業健全化推進機構

代表理事
河上　和雄

遊技産業健全化推進機構が設立され、新年で5年目を迎えました。

機構の立入検査は、検査開始からの累計店舗数が、本年度途中で1万店を突破致しました。これで全国のホールの8割以上をカバーしたことになり、当機構の基幹業務である立入検査活動は順調に進行していると考えます。

しかし、いくつか残念な事案もありました。機構の立入検査を妨害する行為があったことです。検査員の店内立入を拒み続けたり、検査員に罵声を浴びせたりするなど信じられない対応がありました。こうした事態に対処するため、当該の関係団体へ注意喚起をお願いするとともに、理事会で立入拒否の基準などを定め、社員団体へご報告しております。新年にあたって遊技業界に関わる方々すべてに、原点、原点に立ち戻って当機構の存在の意義を思い出し、支えて頂きたいと思います。

さて、経済動向ですが、世界経済は混迷が続き、その中で日本経済はデフレ基調から抜け出せていないのが現状です。ほぼ全業種で生産活動が鈍っており、経産省は鉱業生産指数の基調判断を'08年夏以来の「弱含み傾向」と下方修正したほどです。平均給与は前年より減っており、総務省は「教養娯楽の支出」が前年より減っているとの家計調査結果を公表しています。

また、カジノ法案やパチンコ新法案の動きが出ております。どう推移していくかは分かりません。が、遊技業界を取り巻く環境が急変しており、なかなか予測がつかない時代に入っているとは言えるのではないでしょうか。パチンコ・パチスロが現在のような形で存続していけるのかどうか、見直さなければならない時期に来ているように感じます。

こうした時期に必要なのは「結束」ではないでしょうか。個人的な見方かもしれませんが、これまで遊技業界は、各分野の意見を集約する作業が欠けていたように思えます。時代の大きな波が押し寄せているこの時期、各関係団体がひとつにまとまっていくことを切に願うものです。結束が固く強いパワーを生み出せれば、幾多の困難を克服出来る可能性が高まるからです。

当機構も業界健全化の立場から、努力を続けてまいります。各分野の皆様とともに難局に立ち向かうつもりです。能非、よろしくお願いしたいと思います。

結びにあたり、皆様方の新年の益々のご繁栄、ご健勝を心より祈念いたします。

「パチンコ・パチスロが国民から広く愛され、支持される産業に発展させるため、ホール会員と賛助会員企業が協力し、地域と密着した具体的な企画を準備し取り組んで行く」
一般社団法人日本遊技産業経営者同友会

代表理事
高濱　正敏

新年あけましておめでとうございます。

皆様方にはお健やかに2011年の輝かしい新春を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。

昨年は、ぱちんこホールにおいて様々な営業努力がなされた結果、お客様が引き続き微増となりました。4円パチンコが低迷するなか、低貸玉営業が7割以上にも普及拡大し、低貸玉営業における貸玉料金の多様化が進み競争が一層激化しました。パチスロは好調なものの、全体的な毎月の稼働時間、台粗利等が前年同月対比で落ち込み大変厳しく推移いたしました。

日本経済は長期間にわたるデフレと低成長から脱却できずにおります。

新年を迎え、遊技産業の将来発展に対する希望を持ち、業界変革を着実に成し遂げて行かなければならないと決意を新たにしているところでございます。

今年同友会は、より良い産業を目指して活動するホール経営者の団体として、原点である経営者の姿勢、企業の組織力と店舗力を一層強化して行く所存でございます。そしてお客様と社会から高い信頼を得る業界づくり、その結果としてホール営業の上昇基調への転換を果たしてまいりたいと考えております。

民主党の遊技業法律案を受け議論が行われているところでありますが、将来的に法律制定に進むとしても、それに先んじて現行法の法令・施行規則の改正事項検討、ならびに業界のさらなる健全化の推進、社会